

かがやき が変わります！

「かがやき」は、保育園(所)・幼稚園の皆様と共同で取り組んでいます「研究」と「研修」の内容をタイムリーに紹介するために平成16年度より発行しています。

今回、よりスピーディーに皆様のお手元にお届けできるようにと次の2つの視点からの見直しを行いました。今後ともたくさんの方にご愛読いただきますことを心より期待しております。

1

研修会のエッセンスを絞って
お知らせします

よりスピーディーに講演内容をお伝えするため、新しい紙面ではぎゅっとエッセンスを絞り込んだ概要版としています。「かがやき」を読んで、「もっと詳しく知りたいな」と思われたら、貸出用の『研修会ビデオ』をご活用ください。『研究・研修資料閲覧コーナー』には、研修会の講師の方の著書も積極的に収集していきます。「かがやき」をきっかけとした閲覧コーナーの活用により、自己研鑽の幅が広がりますようお願いしています。なお、講演内容の要約版については、年度末に発行する予定です。

2

A3用紙1枚にまとめました

1枚にすることにより、手軽にコピーして、先生方お一人おひとりに配っていただきやすくなりました。

Information

イ ン フ ォ ャ メ ー シ ョ ン

共同機構研修会ビデオ貸出し

講師の方の許可をいただき、講演内容をビデオに収録し、園内研修にかぎって貸出しをしています。現在、23講演69本のビデオをそろえてみなさまのご利用をお待ちしております。

ご利用になった園からは、「職員が同じビデオを見ることで、共通理解ができた」「日程が合わずに受講できなかった研修会の内容を学ぶことができてよかった」というご意見をいただいております。

ビデオの講演名・講師名、貸出方法などは、こどもみらい館のホームページをご覧ください。

研究・研修資料閲覧コーナー

こどもみらい館2階のロビーに「研究・研修閲覧コーナー」を設けています。

こどもみらい館・保育園(所)・幼稚園・学校・大学・保健福祉局・教育委員会からの発行物、保育関係の週刊誌・月刊誌・書籍などを置いています。

事務室で閲覧台帳にお名前を記入していただくだけで、京都市の国公立の保育園(所)・幼稚園・昼間里親の方ならどなたでも閲覧が可能となります。

「保育について知りたいな」「共同機構研修会の講師の方はどんな本を書いておられるのかな」「あの月刊誌のバックナンバーを見たいのだけれど」・・・そんな時にご活用ください。

これからも皆様のお役に立つ情報の収集に努めたいと思っています。園内研究や研修の報告書などもどしどしとご提供ください。



平成20年度 共同機構連続講座 一 平成20年6月18日, 6月25日, 7月2日

いま改めて、保育の基本は何かを考える

講師 ・ 鯨岡 峻 中京大学教授

中京大学発達心理学教授。京都大学名誉教授。専門は発達心理学、発達臨床心理学、保育心理学。著書に「原初的コミュニケーションの諸相」「両義性の発達心理学」「保育のためのエピソード記述入門」他多数。「両義性の発達心理学」は1999年日本保育学会学会賞（文献賞）を受賞。



6月18日, 6月25日, 7月2日と3週にわたり、「いま改めて、保育の基本は何かを考える」と題し、夜間の連続講座を開催いたしました。講師には、昨年度に引き続き中京大学の鯨岡峻教授をお招きし、

- 第1回 子どもの心は育てられて育つ
—信頼感と自己肯定感の大切さを再認識する—
- 第2回 子どもを一個の主体として受け止めるとは
—子どもの心を育てる保育者の対応—
- 第3回 いま、なぜ保育にエピソード記述が必要なのか
—子どもの心が育てられて育つところをエピソードを通して描く—

という3つの視点からお話をいただきました。

当初設定した300名定員を遥かに上回る631名のお申込をいただきました。申込者全員に参加していただけるよう、急遽、会場を京都市生涯学習総合センター（京都アスニー）に変更いたしました。夜間にもかかわらず、4階ホールもモニター室の第8研修室も満室となり、受講者の方の学ぼうとする意欲をひしひしと感じました。

鯨岡峻教授からは、保育所保育指針・幼稚園教育要領が改定され、保育の見直しを行うべき大切なこの時期にふさわしいへん示唆に富んだお話をいただきました。

受講者からは、「自分の保育を振り返るよい機会となりました」「エピソードを通してお話いただいたことで、子どもを主体として受け止めるということがどのようなことかより良くなりました」「明日からの保育に生かしていきたいと思います」などとモチベーションの高揚を示すアンケートが数多く寄せられています。



平成19年度 共同機構研修会 第7回

平成20年1月21日

これからの保育者に求められること ～就学前の保育の未来に向けて～

講師・増田 まゆみ 目白大学教授

目白大学人間学部子ども学科教授。「保育所保育指針」改定に関する検討会委員。全国保育士養成協議会 現代保育研究所副所長。専攻は保育学。主な著書「これからの保育者に求められること」「乳児保育」「保育実習」「乳児保育のポイント」「保育者論」「保育所保育指針解説」他多数。



平成20年の幼稚園教育要領・保育所保育指針の改定では、「環境を通して」という基本的な考え方は変わっていませんが、子どもが安心して、能動性を発揮し、充実感をもって生活できる場であり、保護者や地域の人が集える子育て支援の場である、という視点をもって環境をつくっていくことが大切です。

子育て支援は、子育ての肩代わりをするのではなく、子育て力を高めることです。保育参加などを通して他の多くの子どもや保育者の関わりの中で子育て力が高まります。

保育では、「保護者と共に」という視点を大切に、24時間を視野に入れ子どもにとって連続性・一貫性のある保育をしていくことが求められています。

保育者は、自らの専門性・人間性を高め、子どもが育つとはどういうことなのかと保育の意味を問いながら発達観・保育観に裏付けられた保育に取り組むことが求められます。具体的な事例を通した園内研修を行い、「子どもを見る目」を高めることが大切です。

これからの保育には、知識・技能・経験に加え、人を肯定的に受け止めようとする態度・心遣い・気遣いをもつ「福祉マインド」という考え方が重要になってきます。自分を肯定的に受け止めてもらうことは、他者を肯定的に受け止めることに繋がります。このことは「人の育ち」に関わるとても重要なことです。

平成20年度 共同機構研修会 第1回

平成20年5月8日



子どもが「理解されている自分」を感じられるように ～思いを攻撃的な言葉や手段で表す子の理解と援助に関する一視覚～

講師・神田 英雄 桜花学園大学教授

桜花学園大学保育学部保育学科教授。専門は発達心理学。主な著書『保育に悩んだときに読む本』『3歳から6歳』『伝わる心が芽ばえるころ - 2歳児の世界 -』『0歳から3歳』『子どもの「変化」と保育実践 - 「荒れる」「キレル」をのりこえる』他多数。

難しい子どもを保育する際には、その子どもを担当がサポートし、その保育者を園長がサポートし、担任以外の保育者も自分のクラスの子どもと同様に見ていくなどのチームワークが大切です。

自分の思いと同じように一緒になって感動してくれる人がいれば、子どもの人間性は豊かになります。今、子どもがバラバラなのは、自分の思いが通じる人がいないからではないでしょうか。

子どもは育っていくべき方向に向けて、自分で育とうとする力をもっています。そこに気持ちが高たされないと、つまり「壁」が生じると、そこで跳ね返り違う方向へ向き、気になる行動として現れます。気になる行動だけ見て対処するのではなく、「壁」を取り除いてあげることが大切です。

子どもをほめることが大切だと言われていますが、ほめすぎることによって「楽しいから遊ぶ」から「ほめられたいから遊ぶ」ことになっていませんか。子どもがしていることをそのまま叙述することによって「あなたのやっていることが素敵だと思うよ」と伝えてみてはどうでしょうか。

悪い行為をした時には、「しかったのは嫌いになったからではなく、好きだからしかるんだよ」ということを伝えることが大切です。また、「楽しいこと」を保障することは、次への行動にすっと移れたりキレないですませるための一つの方法です。

親に対しては、子どもを育て合う仲間としてのスタンスをもち、できていないことを指摘するのはなく、大変さを受け止め、信用し合える存在であることで、分かり合えると信じています。

保育とは、保育者が子どもを守り、また、子どもに守られている仕事です。そのような保育を目指すことで、気になる子どもとの信頼関係も築かれていきます。

こどもみらい館から「すくすく子育てアドバイス！」発行！

価格 500円

こどもみらい館では、小児科医である浅野明美館長が、乳幼児を持つ保護者に年齢や季節に合わせた健康管理等について話し、質問にも専門知識を織り交ぜて答える「館長の子育て井戸端サロン」を毎月1回開催しています。

このほど、実際に参加者から出された質問と回答や応援メッセージ等を取りまとめ、乳幼児の心身の健やかな成長を目指した育児アドバイス集として発行しました。子育ての孤立感や不安を少しでも軽減し、希望を持って楽しく子育てをしていただける冊子です。保育園（所）・幼稚園でも、ぜひともご活用ください。

◆目次◆

子育ての心がまえ、成長のみちすじ、事故防止、予防接種、かかりつけ医のすすめ、生活リズムと眠り、夏をのりきるために、スキンケア、メディア（テレビ・ビデオ）とのおつきあい、しつけについて など

◆販売所◆

こどもみらい館、京都市図書館、京都アスニー、アスニー山科、京都府書店商業組合加盟店（HPに掲載）



企画推進会議と研究研修部会

こどもみらい館では、中京大学の鯨岡峻教授を座長とする「企画推進会議」を設け、事業や関係施策の総合的調整や、保育園（所）・幼稚園、公立・私立の垣根を越えた共同機構として取り組む事業の企画などについて協議をし、こどもみらい館としての取組をすすめています。

今年度は6月20日に第1回の会議を開催し、今年度の事業について示唆いただきました。

「企画推進会議」の下には、「研究・研修部会」を設け、保育園（所）・幼稚園、公立及び私立の垣根を越えた共同機構として取り組む研修会の講師を選定したり、「乳幼児子育て支援研究」「就学前教育研究」「地域と結ばれた事例研究」の3つのプロジェクトの運営や研究内容について協議したりしていただいています。

企画推進会議の構成団体

(社)京都市保育園連盟、京都市営保育所長会、京都市日本保育協会、京都市保育士会、
(社)京都市私立幼稚園協会、京都市立幼稚園長会、京都市私立幼稚園PTA連合会、
市民公募委員
京都市教育委員会、保健福祉局

編集後記

こどもみらい館の玄関ホールに飾った大笹に、親子で寄り添いながら短冊をつるす姿がほほえましく、どんな願い事が書かれているのかしら、とそっと覗いてみたくなりました。

様々な年中行事は子どもの成長を見つめる機会であるとともに、季節を感じ自然の恵みに感謝するときでもあります。いつまでも親子で眺める七夕の夜空にたくさんの輝く星が見えますように、カエルやカタツムリや蝉などの小さな命がいつも子どもたちの身近にいますように。七夕の日から開催された環境・気候変動問題が主要テーマの「北海道洞爺湖サミット」では、空の美しさや小さな命の重さが、未来に生きる子どもたちの健やかな育ちへの願いと重なるということが議論の原点になったことを信じたいと思います。

研究・研修部会委員

江木 朋子（保健福祉局子育て支援部保育課担当課長）

— 子どもを育む喜びを感じ、親も育ち学べる取組を進めます。
（「子どもを共に育む京都市民憲章」より）—

発行日 平成20年7月15日
発行者 京都市子育て支援総合センター
こどもみらい館
〒604-0883 中京区間之町通竹屋町下る
Tel (075)254-5001
Fax(075)212-9909
URL <http://www.kodomomirai.or.jp>